

埼玉県退職校長会
大里支部会報

おとさと

第 48 号

(題字は支部長)
令和2年1月31日
発行者
新井俊一

あいさつ

参加、そして交流を

副支部長 坂本 岳司



令和元年
度の退職校
長会大里支
部は、新井
支部長を中
心に、役

員・会員の皆様のご協力により、
様々な事業が順調に進められてお
ります。特に、地区理事・研究調
査部・福利厚生部・広報部・庶務
会計部の皆様には、本当にお世話
になっております。

さて、昨年は、アジア初、日本
初のラグビーW杯が開催され、全
国各地で熱戦が展開されました。
熊谷市の児童・生徒は、熊谷会場
で熱戦を観戦し、大きな感動を得
たものと思います。そして、今年
は、日本で二度目のオリンピック
ク・パラリンピックが開催されま

す。

そんな中、県退職校長会定期総
会が、本年六月五日(金)に熊谷
文化創造館(さくらめいと)で開
催されます。大里支部では、昨年
から実施委員会を立ち上げ、県退
職校長会と連携を密にし、運営の
準備を進めてまいりました。

ラグビーW杯が素晴らしい大会
になったのは、様々な事前準備が
あったからと思われれます。大里支
部での県退職校長会定期総会開催
は、十年に一度です。実施委員・会
員の皆様よろしくお願い申し上げ
ます。

併せて、大里支部では、時代の
変化に対応し、雇用促進・高齢化
等を踏まえ、週休日の開催など総
会や事業等の内容・運営について
見直しを図ってまいりました。

大里支部の総会、大里地方教育
推進協議会等の事業、各班の総会
や事業では、会員の皆様の参加が
不可欠です。令和元年度の今、会
員の皆様が、退職校長会を見つめ
なおし、様々な事業への積極的参

加をお願いする次第です。
退職校長会大里支部の充実・発
展のために一層の参加・交流をお

願い申し上げます、あいさつとさせて
いただきます。

「彩の国教育の日」協賛

第四十回 大里地方教育推進協議会概要

令和元年十一月十二日「彩の国
教育の日」協賛第40回大里地方教
育推進協議会が熊谷市江南公民館
にて開催されました。来賓に熊谷
市教育委員会教育長 野原晃様、
県退職校長会会長 石田孝作様、
指導者に県教育局北部教育事務所
所長 片桐雅之様をお迎えし、盛
会裏に進行しました。開会式で新
井俊一支部長より、協議会が互い
の立場を知りあい、話し合う場と
なる事が大切と話されました。野

原教育
長様か
ら、
「熊谷
市では
ラグビ
ーワー
ルドカ
ップが
教育の
一場面
となり

地方教育推



原教育
長様か
ら、
「熊谷
市では
ラグビ
ーワー
ルドカ
ップが
教育の
一場面
となり
貴重な体験となり成果をもたらし
た。」との話しがありました。
石田会長様からは、県退職校長会
の活動内容や協議会の成果等説明
されました。発表では、熊谷市立
久下小学校吉野富夫校長が「主体
的・協働的で創造的な活動を通し
て未来を切り拓く事のできる児童
の育成」をテーマとし課題解決の
通してくをテーマとし課題解決の
柱に、①経営方針とその実現のた
めの具体的な方策の周知徹底②カ
リキュラム・マネジメントによる
教育力の向上③個々の教員の授業
力・生徒指導力の向上④働き方改
革の取り組みが発表されました。
退職者は熊谷班小池博さんより
「郷土を見つめて」をテーマとし、
実践を四項目で発表されました。
自らが生まれ、育ち生活する郷土
を守るために住民が様々な場で交
流を深めあい、故郷づくりに参加
し愛着を持ち続け、次世代に繋げ
るため自治会長や役員となり協働

者を得て、誠意と奉仕の姿を示すことの大切さを発表されました。

教育事務所長片桐様より、吉野校長の発表は、適切な研究課題であり校長自ら職員と共に行動し実践を示し丁寧・徹底して研究に取り組む姿が信頼され研究が深まり、指導力が高まり成果を得ている。小池さんの発表は、退職後地域の中で積極的に尽力する姿は現職者に参考となり、学ぶべきことが多くある等と指導講評がありました。

(文責 副支部長梅澤泰助)

感想

熊谷西 新井 守

暑い夏がやっと終り、秋の到来を感じる日。現職校長の研修会のため、30分遅れましたが、多くの参加者のもと、開催されました。

提案1では、「主体的・協働的に創造的な活動を通して、未来を切り拓く事のできる児童の育成」をテーマに取り組んでいる熊谷市立久下小学校の教育実践について、吉野富夫校長から発表がありました。

学校経営の課題を4点にしほり

それぞれに課題解決の方策を具体的

に設定し、かつ見え化する化をしました。プロジェクトリーダーを育成し、研修会や授業研究会を実施して大きな成果を上げました。

提案2では、「郷土を見つめて」をテーマに、熊谷班の小池博さんが校長退職後の活動を内容豊かに発表されました。

久保島地区の自治会活動では、住民と新住民の交流促進のために、これまでの納涼祭や神社の祭典を復活し、新たに「久保島曼珠沙華祭」を創り出しました。その結果、地域住民の協力が深まり、郷土愛が再生されつつあります。

また、熊谷郷土文化会では、現在会長としてご活躍されているそうです。

お二人の発表は、真に具体的であり、見える化であり、示唆に富むものでした。参加者の日々の活動に、今後の生き方に大変参考になるものと確信しています。



随

想



野菜づくりと食の安全

熊谷東 島村 明義

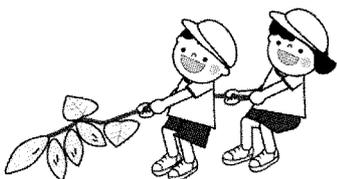
野菜づくりの趣味が転じて、専業農家のような生活をし、ほぼ無農薬の野菜づくりをしています。

十一月の旬はサツマイモです。収穫した芋は、直売所や農協に出荷したり、子育て支援団体の食材として無料提供したりしています。また、地元の小学生の芋掘り体験の場としています。子供たちが「とったぞー」と大きな芋を持ち上げ、得意げな笑みを浮かべている姿を見ると、真夏のつる返しの暑さを忘れてしまい、うれしくなります。

現在、高齢化社会に栄養バランスの取れた食事は注目されますが、食材となる野菜に使用された農薬についての話題は取り上げられません。本年オリンピックが開催されますが、ある国では自国の選手が食べる野菜は空輸されるそうです。国により農薬基準が異なるか

らです。店頭に並んでいる野菜でも、殺虫剤などの農薬がどれくらい使われているか心配です。

さて、江戸時代に書かれた「農業全書」や「百姓伝記」という本があります。経験値に基づくたいへん優れたもので、現代の農業科学でも証明できる栽培技術が記載されています。これこそ究極のオーガニック栽培ですが、良いところは、アブラムシ、テントウムシ、カエル、カマキリ等が共存共栄しています。いわゆる自然の天敵栽培です。多少の虫付き野菜が健康面には良いのかもしれませんが、生徒指導と同様、作物にも愛情を注ぎ思いやりの心を持ち、「奪って得なく 与えて損なし」の精神で、安心・安全な野菜づくりに精進して参ります。



「敗けてたまるか!」

熊谷中央　堀　宣明

時は中学校の卒業式が終わった頃。人工透析から帰宅し転倒、救急車で病院へ。診断結果は大腿骨骨折。あまりに骨折が大きいので人工関節を入れることになった。

手術が迫る日、ドクターが言った。「筋肉を切つて人工関節を入れるので、もとの足に戻ることはありません。あとは本人がどれだけリハビリをして、もとの戻す努力をするかです。」

右足は脳梗塞のマヒで今度は左足の骨折かよ。歩けないのかよ。手術が終わつても左足は痛い。でも寝たまま足のストレッチが始まった。なかなかベッドに座れない。ある日、ドクターが言った。「リハビリは一週間単位で比べて下さい。」と。

マスコミは平成から令和になつたと大騒ぎしているが、私は静かにリハビリの日々。



初夏の丹後山（利根川水源の山へ）

大型連休明けにリハビリ転院。

「Mちゃん（娘のように可愛いがつている介護士）に歩いて会いに行く。」を合言葉に本格的リハビリ開始。平行棒に掴まって、しつかり立つこと。次に一歩歩くこと。「Mちゃんに会いに行くぞ!」

リハビリ室では障害のある高齢者で、これだけモチベーションの高い患者は珍しいと話題になっていたそうだ。

平行棒を複数回往復できるようになり、呼吸の乱れも少なくなってきた。次はピックアップ（パイプ製の自立型歩行器）を使つての歩行。距離を伸ばすと同時に、トイレに入つての利用訓練。理学療法士が見守る中でシャワー浴。どこまで機能が回復したかチェックするためだ。しかし、回復の進歩はカタツムリのように遅い。今もリハビリを頑張っている。「敗けてたまるか!」と言いながら。

『性的少数者（人権課題）の人権を知っていますか?』

熊谷西　須藤　一郎

退職と同時に県の人権推進課の講師として雇っていただきました。

現在、本課の課題として大きく

位置づけられているのが「性的少数者の人権」です。この課題について、私自身知らないところが多きくさんあり学んでいるところです。この課題について紹介いたします。

この課題の大前提は、「性のあり方は多様」ということです。個人の性について考えるときに、「身体の性別」「性自認」「性的指向」などの側面を考える必要があります。

「身体の性別」は、生物学的に男性か女性を示すもので、身体的な特徴からある程度客観的に判断できます。

「性自認」は、主観的に自認する性別のことで、「心の性」とも言います。

「性的指向」は、自分が恋愛・性愛の対象とするのは男性なのか女性なのか、あるいは性別にかかわらずなく対象とする人もいます。

多くの人（マジヨリテイ）は、身体の性別、性自認が一致し、性的指向が異性に向っています。しかし、身体の性別と性自認が一致しない方や性的指向が同性や両方の性に向かうなど様々な方が一定数存在します。このような方を「性的少数者（性的マイノリティ）」と言います。

最近では、「LGBT」という

言葉を見たり聞いたりする機会が増え、このことで「生産性が低い」と発言し話題になった方もいました。

県政世論調査でも、「性的少数者の人権は、社会的に理解されつつあるものの、まだまだ十分とは言えない」という結果も出ています。私たちは、性的少数者の人権も理解し尊重することが大切です。

「一生に一度」を感じて

熊谷南　水庭　桂子

令和元年の九月「四年に一度じゃない。一生に一度だ。」が熊谷にやってきた。何年も前から「ワールドカップは熊谷ラグビー場で」と多くのファンの願いが叶った。

私とラグビーとの出会いは、平成十二年熊谷市立大幡中学校でラグビー部が新設された年である。特徴ある楕円形のボールの不規則な変化や体がぶつかり合うタックルを目の当たりに、驚きと心配の連続であったことを覚えている。

ワールドカップは「一生に一度」だからと見逃してはならぬと会場やテレビで観戦しているうち

にルールがわかり、選手一人ひとりの表情や動作も見取ることができるといった。勝利へのこだわり、決断力、力と力がぶつかる闘争心、何よりチームを信じる「ONE TEAM」の強い絆を楕円形のボールに込めてつなげていくラグビーの凄さとおもしろさに目を奪われた。特に「あきらめない心」は、言葉通り一つ一つのプレーから素人の私にも伝わる熱い戦いに感動した。そして試合終了でノーサイド。激しくぶつかり合った選手が互いの健闘を賞賛するシーンは、まるで卒業式のワンシーンを見ているような気持ちになった。卒業式までの道のりは長い、教師は生徒の健闘を認め、「いろいろあったけれど先生、ありがとう」の言葉を聴き、ノーサイドとなる。

現在、三校に勤務し多くの先生方や児童生徒と将来の夢に向かい、少しずつ前進している。それぞれの学校が目指す「ONE TEAM」の力になれるように、私もエネルギーをもらった。そんな中、大幡中学校で久しぶりに新人戦ラグビー優勝カップをみることにできた。

にわかファンの仲間入り！

日々之実践

熊谷北 関口 輝男

児童館を退職して何をやるうか迷ったが、土地があるので家庭菜園でも、と気軽に考えた。最初のうちは茄子やキュウリを作ったが、我が家の正月三ヶ日は「里芋」縁起のため、近所で「土垂どたれ」という里芋の種を頂いた。それが良くできた。食べきれないので近所の直売所に出荷した。するとよく売れた。よく売れるためのコツは①②③。①良い物を作る。②客の目につきやすい場所に置く。③そのため、早く行って並び、時間の合間に地域の皆さんから作り方や売れる作物などの情報を収集した。

野菜作りで分ったことは、学校では「子ども達に同じことを教える」が、農業は人と同じことをしていたら勝負にならないということであった。

里芋の次に作る作物は何かを考えた。玉葱を一個作るのと同じ手間ならば値段の高いニンニクを作ることを考えた。ホワイト六片、ジャンボニンニクも挑戦したが、種代が高く、青森よりも温度が高い北関東では良い品はできなかつた。そこで見つけたのが中国産

「嘉定かんていニンニク」である。種代は安いし、暑い気候に合う品種であった。出す人も少なく直売所の置く場所も余裕があり、並ぶ必要もなくなった。今年は残念な事に雨が多く、収穫したニンニクがたくさん腐ってしまったことが大きな失敗であった。来年は梅雨の時の乾燥の仕方を考えなければと思っている。

学校では子ども達に「生きる力を」教えたが、今は地域の人たちから「生き抜く力」を教えて頂き、土に親しみ、良い汗をかく毎日である。

台風19号を通して

感じたこと

深谷北 荒木 宏治

台風19号が東日本を襲ってから3週間になる。豪雨による堤防の決壊は、7県52河川に及んだ。大きな爪痕、テレビから氾濫した河川やその周辺の映像が流れるたびに言葉を失う。治水の大切さと浸水の恐ろしさを思い知る。多くの人が避難生活を強いられている。

私の住む周辺の利根川、小山川の水位はかなり上がったものの、氾濫を免れ、事なきを得た。でもそれは今回たまたまそうだったに過ぎないのかもしれない。

64歳にして、初めて避難を経験した。それだけに深谷市は、住みやすい土地だったに違いない。防災放送での避難準備が出た段階で、避難準備をしたが、避難することは考えていなかった。絶えず台風の進路や暴風のピーク時刻等の情報は収集していた。避難勧告、避難指示も出た。自治会からも、「避難するように」と電話がかかっていた。しかし、避難すべきか迷っていた。ついに、子ども達の再三の電話により避難する気になった。

避難所は、初めて避難をした方が大半だった。大きな混乱なく避難が出来たのは市役所の方や様々な方々が対応に当たってくれたからだ。自分自身が大変な中にもかかわらず、本当に頭が下がる思いだ。

土壇場で支度をして逃げ遅れるかもしれない。逆に、避難に向かったがために危険に曝されるかもしれない。私は、今回の避難で、避難勧告・指示が出たら、「すぐに避難はすべきである」と感じた。今回は正直、避難までの想定をする余裕はなかったが、今後のためにも家庭の防災について話し合う必要があると感じた。

避難は「迷ったら早めに行く！」と締めくくりたい。

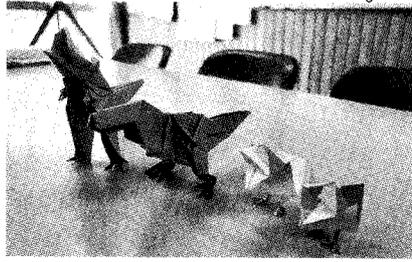
知らないことの 多さに気づける楽しさ

深谷中　松村　郁己

「かわいいなあ」と、
「かつこいいな」と、

目を輝かせて園児たちが集まって来る。「すごいねえ」と二足で自立する恐竜やひよこの折り紙作品に感動するのは大人の感覚。

幼稚園長として勤務四年目を迎えた。マ
イブームなのは折り紙。園
児たちと一緒に折り始めた
が、私にとつ



て楽しい時間なのである。最近、幼児のためだけでなく、親子で楽しむ、脳活性折り紙と、書店にも所狭しと折り紙の本が並んでいる。いくつかを購入し折っているが、複雑極まりない折り方はどのように考えるのか、絶妙なバランスで自立できるなんて不思議だと折り紙の世界の奥深さに驚くばかりである。のめり込むほど楽しさを感じるのもゆとり故なのであろうか。現役時代には気づかなかった不思議である。目を輝かせて折り紙に

向っているのは、園児よりも私である。

卒園児が上手に折れるようになった折り紙作品を届けてくれる。何とか自力で折ろうと四苦八苦、何度もチャレンジする在園児がいる。将来は、自分の折りたいと思ふものの折り線を探る人材が園児の中から育つかも知れないとわくわくしているのである。

退職したら、山に登りたいと思っていた。リュックサックを背負って、息を切らせながら頂上をめざして緑の中を歩く姿に自分を重ねていた。今の環境から卒業したら叶えたいと、今から楽しみにしている。

そこには、また、私の知らない世界が待っていることだろう。自分が知らないことの多さに驚きながら、それを楽しんでいる昨今である。

「天燈上げ」体験から

深谷南　馬場　和久

台湾の北東部に「天燈上げ」で有名な十分(シーフエン)という老街があります。自然豊かな所で、街の中央を平溪線というディーゼル車が走っており、日本が台湾を統治していた昭和初期を想わせるようなレトロ感漂う街です。

天燈は、その側面に願い事を書いて空高く放つというもので、十分(シーフエン)では、線路上で毎日夜遅くまで行われているというから驚きです。古くから続いていた民族習慣で、今では現地の人々の生活を支える重要な観光イベントにもなっています。天燈の原理は簡単に熱気球と同じです。早速、私も赤色の大きな天燈に願い事を書いて飛ばしてみました。当日は生憎の雨の中でしたが、見上げると沢山の天燈が空高く昇っていき、その光景は実に幻想的なものでした。

ところで、燃料の尽きた天燈はどうなってしまうのかと心配になり、案内の方に訪ねてみました。殆どが同じような場所に落下してくるそうですが、専門の回収業者もいて、片付けには苦労されているようです。残骸が高木や建物の上などに数多く見られ、近年では環境面での課題も指摘され始めています。幸い、年間雨量の多い地域なので山火事などの心配は少ないとのことでしたが、異文化理解が大切とはいえ、私たち日本人にはなかなか馴染みにくい習慣だと感じてしまいます。

近頃、GCMN(グローバルコンパクト・ネットワークジャパン)の会員活動としての機会を頂いているせいか、何かと環境に関するSDGsやCSR・ESDなどの文字が

目に留まるようになりました。

「天燈上げ」を否定する気は更々ないのですが、近年の気候変動や自然災害が気になってくることから、取りあえず私の天燈には「地球環境保護を」と書いてみました。

公民館活動との出会い

寄居　室岡　寛昭

「室岡さん、定年退職しましたよね。」と、退職して一年が過ぎようとしたある日突然に区長さんが桜沢公民館長の依頼にやってきました。私は、「別の仕事があるので、・・・。」と断るつもりでした。しかし、在職中どれ程地域の方々にお世話になったのかを考えると、今こそ恩返しをしなければならぬと思ひ、公民館活動に携わることを決めました。

現在、地域は、地域防災、防犯環境、家庭の支援、学校への支援等、様々な課題が山積していると考えます。公民館は、地域の住民に最も身近で、なくてはならない存在とならなければなりません。子供から高齢者までが集い、互いに助け合い、協力し合える地域のコミュニティの役割を果たさなければならぬと考えます。また、社会のニーズの変化に柔軟に対応しながら、生涯学習振興の中核と

して発展していかなければなりません。今日ではIT革命をはじめとする社会構造や地域社会の大きな変革の中で、新しい時代に生きる人々のための社会教育施設として、更なる役割が求められていると思います。

現在の公民館の職員は、館長、主事、運営委員で構成されています。ほとんどの職員が現在も働いている状況にあり、就いて

同好会だより

写真同好会

会長 岡部 弘行

会員は八名。年三〜四回の例会をさくらめいとの会議室で開くほか、秋には撮影小旅行を行っています。森林公園、秩父、赤城山、日光など多方面です。

例会では各自が写真を持ち寄るわけですが、サイズや枚数には制限はありません。構図やシャッターチャンスなどの技術的な面についての話し合いよりも撮影時の苦勞や裏話に話題の中心が移るようになり、これが同好会本来の形なのかなとも思っています。
将来は作品展開催も視野に入れるなど会員の意欲は満々です。

いる職業は異なります。そして公民館事業に対して様々なアプローチの仕方（アイデア）が出され、今後の公民館活動にプラスに働いています。今後も知恵を出し合いながら地域の実態を分析し、特色を出し、地域の住民の方が興味を持ち、使ってもらえる公民館を目指し活動していきたいと思えます。

また、地域住民の方に感謝の気持ちを忘れず活動していきたいです。

囲碁同好会

会長 深田 忠雄

◎春季大会成績 五月二十五日

優勝 林 健次

準優勝 来間平八

◎秋季大会成績 十一月十六日

優勝 林 健次

準優勝 飛田典保

小学四年女子の仲邑薫さんがプロ初段にデビュー。プロ棋士になつて四年十一月（新記録）の芝野虎丸八段が十九才九ヶ月で名人に就任。満十八才の上野愛咲美女流棋聖が女流本因坊タイトル奪取。若手陣の大活躍に敬服致します。皆さん共々、忙中閑ありと囲碁を楽しみたいものです。

絵画同好会

会長 清水 信二

絵画同好会の主な活動は、六月と十一月の風景写生画、九月の静物画、二月の人物画制作です。

また、十月には、水墨画同好会の皆様との合同の作品展を開催しています。

さて、絵画制作の醍醐味は、何と言っても、作品に集中できることです。それから、同好会の方々の様々なコミュニケーションは、最大の楽しみです。

油絵、水彩画に興味のある方は、どうぞ気軽に、あるいは、思い切って参加してみてください。

水墨画同好会

会長 篠崎 忠男

水墨画同好会は深谷公民館を会場に月二回開いています。定例会は、個人の都合もあり、三人位しか出ていません。

水墨画は硯、墨、筆、水入れ、用紙があれば始められます。

会も高齢化し全員八十才以上です。妻沼の小林芳雄先生は八十九歳になりますが、いつも立派な作品に仕上げ、各種の作品展にも入賞しています。

亡くなった塚越 茂先生が作られたこの会が益々発展できますように、若

い先生方が多数入会されるようお願い申し上げます。



冬の浅間山（黒斑山より）

茶道同好会

会長 町田 壽子

一ヶ月に一度、日常と少し違う時間を過ごしております。

梶並圭舟（勉）先生にご指導をいただきながら、深谷公民館で茶の湯のお稽古をしています。

床の間に軸を掛け、茶花を飾り香を焚きます。季節の和菓子を味わった後には、会員同士で点てた抹茶をいただきます。心を込めて点ててくださった抹茶は、五感を豊かにしてくれ、ほっとする一時を過ごさせてくれます。

日本の伝統文化に触れながら、梶並先生や会員の現職時代とは一味違うお話を聞けるのも楽しみです。

地区だより

源宗寺「平戸の大ぼとけ」

熊谷東 遠藤 雅子

大仏といえ、奈良や鎌倉が有名ですが、熊谷市平戸の源宗寺に祀られている二体の大仏をご存じでしょうか。以下、熊谷市江南文化財センターの山下祐樹学芸員さんに話を伺いました。

源宗寺は、十七世紀初頭に藤井雅樂助が開基し、薬師如来と観音菩薩の二体の「木彫大仏坐像」が横に並び鎮座している。仏像の存在は武蔵国の地誌『新編武蔵風土記稿』にも記され、

古くから地域の歴史とともにあった。二体の仏像は台座と光背を含めると約四メートルの規模を誇り、「平戸の大ぼとけ」と呼ばれている。木彫による造形美と重厚感が融合した迫力ある寄木造で、円形の光背も壮観。表面は金箔の上に黒漆を塗る技法が用いられ、光沢を帯びている。仏像の胎内には菓の秘伝書が収納され、これを調剤した馬の病氣と疝氣（せんき）（腰・腹の痛む病氣）の菓が評判とな

り「平戸の妙菓」として近在から多くの参拝者を集めた。二体の仏像が安置される源宗寺本堂は「千日堂」と呼ばれ、古都奈良の東大寺大仏殿に模した形状と伝承されている。

去る十一月三日の特別公開で大ぼとけを拝覧しました。長い時代を超えて黙想を続ける凜とした佇まいに胸を打たれました。

現在は、建造物の老朽化が進み、仏像の保存にも支障が生じることが懸念されるため、寄付を募り保存修理事業を実施しています。多くの方々のご協力をお願いしていただくとす。



平戸の大ぼとけ

役員・理事研修会

農業を学ぶ

役員・理事研修会報告

九月五日、役員、理事会後、「埼玉県農業大学校」で現地研究会を開催しました。熊谷市に五年前に移転・開校後、平成二十八年には、日本農業技術検定協会の最優秀団体賞を受賞するなど、農業知識と農業技術力の向上を目指して、着実に農業後継者育成に尽力しています。

入学者は高等学校或いは既卒者が対象で、六十歳を超える方もおり、年齢層の幅広さには驚きました。入学後は、個人の目的・目標を達成するために学科等を専攻し、課題解決型学習を基軸として農業経営者に必要なカリキュラムに挑戦し、免許・資格の取得に力を尽しているとのことでした。

卒業後の主な進路は、以下のとおりです。法人就農、関連産業の農業経営、大学への編入学等。

(文責 大河原 宏)

第十六回秋季ゴルフ大会

全国に甚大な被害をもたらした台風十九号の影響は、利根川沿岸にも及び、妻沼ゴルフ場を十一月いっぱいクローズに、対岸の上武ゴルフ場は今年いっぱいクローズにまで追い込んでしまいました。この様な状況で、令和元年十一月二十二日（金）に予定をしていた第十六回ゴルフ大会は、大変残念ながら中止せざるを得ませんでした。大会を心待ちにしていた皆様には大変ご迷惑をおかけしました。(文責 島崎一雄)

計 報

平成三十一年 令和元年

氏名	年齢	逝去去月日	地区名
渡邊 利夫	90	平31.1.7	熊谷東
中島 浩一	86	平31.2.7	熊谷中央
石田 茂	69	平31.4.3	寄居
新島 養平	78	平31.4.7	熊谷中央
雲井 秀昭	91	平31.4.14	熊谷中央
小林 莊平	87	平31.4.25	熊谷西
新井 雄	88	平31.4.30	深谷中
今井 久子	86	平31.6.14	熊谷南
稲村 義雄	87	平31.7.20	熊谷東
小島 一郎	69	平31.9.7	熊谷北
高柳 進	84	平31.11.18	深谷北
田島 達郎	95	平31.11.19	熊谷中央
木村 潔	92	平31.11.28	熊谷南
加松 利雄	89	平31.12.16	熊谷中央

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

文芸

短歌

ラグビーワールドカップ

熊谷中央 角田 光男

ラグビーのルール不思議と思いがいつの間にやらにわかファンにスタンドは代表歌にておもてなしラグビー戦士のお返しお辞儀
釜石の汚泥と闘う外つ国のカナダ選手の眼差し光る

昭和の時代

熊谷西 山室 鐵夫

八十路すぎ初めて訪ねし分校は若き日に見たる映画の舞台
分校の二人机をなでさすり
思い巡らす昭和の時代
「二十四の瞳」の像に祈りたる
令和の世にも戦の無きを

俳句

四季を想う

熊谷南 原口 一明

同じ顔幾度も見合う桜土手

キャンバス向う背中に蝉しぐれ
峠越え緑の木々に草紅葉
のどかな日白い頂冬便り

秋思い

熊谷北 根橋 文武

秋草や名知らぬ君の如く生く
小春日や忙なくなりし時は過ぐ
秋晴れや四等賞の孫の汗
北風に孫の手ぬくし散歩道
立冬や診察券がまた一枚

四季彩々

深谷北 吉井恵美子

蹲いに紅一輪の落椿
曼陀羅の黒き如来や飛花落花
朝顔の花談議聞く散歩かな
濁流に赤きこすもす流れおり
冬の蝶子規庵の庭音も無く

野の風

寄居 石澤 邦彦

野の風の色は水色犬ふぐり
ひなげしの囁き聴きに風の畑
野の風を入れけり母の日の仏間
風匂ふ棚田に秋の立つ気配
まだ風に馴染まず青木花すすき

令和2年度埼玉県退職校長会 総会について

事務局長 大岡 由男

令和2年6月5日(金)に『埼玉県退職校長会総会』が熊谷文化創造館さくらめいとで開催されました。10年に一度、大里支部で開催される一大行事です。当日は、総会、アトラクション、講演会、懇親会と内容が目白押しです。併せて、美術展も開催されます。

現在、新井俊一支部長を中心にして開催に向けて全力で取り組んでいます。各班で役割分担を工夫し、委員を決め担当責任者を選んで話し合いの効率化を図っています。今後、5月に県事務局との最終的な打合わせ会が予定されています。

県総会を成功させるためには、大里支部をあげて全会員の皆様の強力なご支援が不可欠です。是非とも趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

写真説明

写真は写真同好会田野昭一様より提供いただきました



冬の蓼科山

編集後記

多くの皆様のご協力で、ここに会報「おおさと」第四十八号をお届けすることができました。会員各位にお礼申し上げます。

原稿依頼を心良くお引き受けいただき、お忙しい中、心のこもった寄稿に広報部一同感謝しております。

令和二年、改元に伴う諸行事もほぼ終了し、令和という新しい時代も本格的にスタートの年になりました。災害の少ない明るい時代になることを願いつつ、広報発行に努めたいと思います。

今後とも、広報部の活動にご理解とご協力を、よろしく願っています。

令和元年度 広報部員

弘子	明守	明裕	三章	一昭
眞雅	一重	誠寛		
田藤	林井	口島	田本	澤岡
内遠	小新	原福	河松	大室

埼玉県退職校長会大里支部会報 (第四十八号)

発行 令和二年一月三十一日
発行者 支部長 新井 俊一
印刷所 光陽社印刷所

熊谷市本町二丁目一〇
(〇四八五二一〇七五七)